# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805　東京都新宿区矢来町65
電話 03(5228)3171　FAX 03(5228)3175
発行者　総主事　司祭　矢萩新一


## 「教会も社会の一部では？」

管区事務所総主事　司祭　エッサイ　矢萩新一

「教会の中で政治的な話はちょっと…」、今も昔もよく聞く言葉です。政教分離の原則があるのだから、様々な考えを持つ人の集まりだから相応しくないという思いがあるのかも知れません。私たちの価値観は、その人の経験によって作られ、その人の生き様を映し出す鏡だと言われます。その価値観をイエスさまの教えに従わそう、神さまと人々を愛する道を選びとっていこうとするのがキリスト者であるとするならば、私たちの生きている現実社会との関りを抜きに、信仰生活は送れないと思うのです。

政教分離原則という言葉は、国家と教会の分離の原則。「政」とは、狭義には統治権の主体である「政府」、広義には「君主」や「国家」を指す。「国家の非宗教性、宗教的中立性の要請、その制度的現実化」。信教の自由の制度的保障、政教分離と信教の自由は不可分。とウィキペディアなどでは説明されています。

天皇の代替わりを来年5月に控え、各教派から要望書が出されています。政教分離の原則や信教の自由の観点から、国家の行事として大嘗祭などが行なわれることへの懸念です。これは、かつて日本が天皇を国家元首として行なった戦争の反省に基づくものです。今の時代にそんなことはあり得ないし、心配しすぎだと思われるかもしれません。しかし、現政府は憲法に自衛軍を明記して、武器を持って戦うことを可能にする内容に変えようとしていますし、強い日本を取り戻す、愛国心を育てなければと宣伝をしています。これだけグローバル化した世界の中で、自国ファーストな考えが果たして通用するのでしょうか。

私たちは世界に広がるアングリカン・コミュニオンの一員として、今の日本や世界の流れの中で、すべての「いのち」を大切にするキリスト者として、正義と平和の課題について声を発する責任があると思っています。様々な宗教や教派からも、それぞれの信仰的な良心に基づいて、政治や国の行政に携わる人々へ声が発せられています。それは、大切な人の命が失われないため

## □会議・プログラム等予定

（10月25日以降）

**10月**
- 25日（木）～29（月）韓国社会宣教スタディーツアー〔韓国・大田〕

**11月**
- 6日（火）正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄・三原聖ペテロ聖パウロ教会〕
- 8日（木）教役者遺児教育基金・建築融資金運営委員会〔管区事務所〕
- 9日（金）正義と平和委員会・公開学習会〔京都〕
- 12日（月）女性の聖職位に関わる委員会〔管区事務所〕
- 19日（月）主事会議〔管区事務所〕
- 21日（水）財政主査会〔管区事務所〕
- 26日（月）～29日（木）日韓協働合同会議･フィールドワーク〔釜山〕

**12月**
- 3日（月）原発のない世界を求める国際協議会実行委員会〔管区事務所〕
- 4日（火）常議員会〔管区事務所〕
- 4日（火）～5日（水）各教区人権問題担当者会〔バルナバホール〕
- 5日（水）人権問題担当者会〔管区事務所〕
- 6日（木）文書保管委員会〔管区事務所〕
- 10日（月）主教会タスクフォース会議〔管区事務所〕
- 17日（月）日韓協働委員会〔管区事務所〕
- 19日（水）法憲法規委員会〔管区事務所〕
- 28日（金）管区事務所仕事納め

**<関係諸団体会議・他>**
- 10月25日（木）～27日（土）聖公会社会福祉連盟第59大会〔九十九里ホーム〕
- 26日（金）資料保管に関する東日本地区協議会〔ナザレ〕
- 29日（月）～11月1日（木）聖公会東アジア礼拝ネットワーク設立総会〔東京・聖アンデレ主教座聖堂〕

（次頁へ続く）

に、傷つき後悔することのないように、弱い立場に置かれた人々に寄り添うためにではないでしょうか。

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」
（マルコ10：45）

## □常議員会

第 64（定期）総会期第 2 回　2018 年 10 月 16 日（火）

＜主な決議事項＞

1. 財政主事任命に伴う会計監査員の変更に関して、候補者をあげて矢萩総主事が調整等を行なうこととした。
2. 「日本聖公会北関東教区」の境内建物除却および基本財産処分（東松山聖ルカ教会礼拝堂・牧師館）に関して協議し、これを承認した。
3. 気候ネットワーク自然エネルギー 100％宣言・賛同に関して、正義と平和委員会・原発問題プロジェクトへ働きかけてみることとした。
4. 2022 年開催予定の宣教協議会に関して、2012 年＜宣教と牧会の十年＞提言の再確認はもちろん、主教会とも連携し、取り組みを急ぐ必要があるなどの意見を交わした。
5. ACC や CCA から分担金増加の依頼を受けていることに関して、矢萩総主事より報告があり、ACC については請求通り納めていく方向、CCA については請求額に届かないが小額増額し、様子を見ることとした。

次回および次回以降の会議：12 月 4 日（火）、2019 年 2 月 4 日 ( 月 )、4 月 9 日 ( 火 )

## □各教区

### 北海道

・ 第 77（定期）教区会　2018 年 11 月 22 日（木）17 時～ 23 日（金･休）16 時　北海道教区主教座聖堂（札幌キリスト教会）

### 大阪

・ 第 121(定期）教区会　2018 年 11 月 23 日（金）9 時～ 17 時　大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）・会館

### 沖縄

・ 第 67（定期）教区会　2018 年 11 月 22 日（木）18 時～ 23 日（金）15 時　沖縄教区センター

（前頁より）

11 月 6 日（火）～ 8 日（水）日韓キリスト教「障害者」合同セミナー〔釜山〕
30 日（金）～ 12 月 1 日（土）女性の司祭按手 20 周年リトリート〔ナザレ〕
12 月 1 日（土）女性の司祭按手 20 周年記念礼拝〔東京・聖アンデレ主教座聖堂〕
7 日（金）ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕
11 日（火）日本キリスト教連合会常任委員会〔早稲田〕

### 公　示

救主降生２０１８年10月22日
日本聖公会
首座主教 ナタナエル植松 誠 ㊞

神のおゆるしがあれば、
主教被選者 フランシスコ・ザビエル髙橋宏幸師の主教按手式および日本聖公会東京教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。
主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代祷を求めます。

記

日時　：2019年1月14日（月）午後1時00分
説教者：主教 ゼルバベル広田勝一 師
（北関東教区主教）
式場　：日本聖公会東京教区 香蘭女学校礼拝堂
東京都品川区旗の台 6-22-21

※祭色は赤を用います。

以上

## □関係諸団体

・ 植松誠首座主教が世界宗教者平和会議日本委員会の理事長に就任。（公財）世界宗教者平和会議（WCRP/Religions for Peace=RfP）日本委員会は 9 月 28 日、同日本委員会理事・総合企画委員の植松誠師＝日本聖公会首座主教を新理事長に選任した。（詳細は 10 頁・WCRP/RfP 日本委員会のプレスリリースを参照。）

## □神学校

聖公会神学院

・ 諸聖徒日および聖公会神学院創立感謝記念礼拝　11 月 1 日（木）14 時　聖公会神学院諸聖徒礼拝堂　司式：校長 司祭 佐々木道人　説教：主教 入江 修（横浜教区）

ウイリアムス神学館

・ ウイリアムス神学館関係逝去者記念聖餐式 12 月 3 日（月）10 時半　京都教区主教座聖堂（聖アグネス教会）　司式：主教 高地 敬（京都教区）　説教：司祭 山本 眞（大阪教区・退）

◆お詫びと訂正

『管区事務所だより第 335 号』4 ページ《人事》

横浜　窪田真人執事（現司祭）の教名が誤っていました。 お詫びして訂正いたします。

（誤）ペテロ　→　（正）パウロ

---

《人事》

東京

| | | |
|---|---|---|
| 司祭 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸 | | |
| | 2018 年 10 月 16 日付 | 東京教区主教秘書の任を解く。 |
| 司祭 ダビデ倉澤一太郎 | 2018 年 10 月 16 日付 | 東京聖三一教会牧師、聖愛教会管理牧師、東京聖十字教会管理牧師の任を解く。 |
| | 2018 年 10 月 17 日付 | 入院・加療および退院後の状況を鑑み、2019 年 3 月 31 日まで休養を命じる。この間、主教座聖堂付とする。 |
| 司祭 パウロ宮﨑 光 | 2018 年 10 月 17 日付 | 聖愛教会管理牧師を任命する。但し、期限を 2019 年 3 月 31 日とする。 |
| 司祭 アモス金 大原 | 2018 年 10 月 17 日付 | 東京聖三一教会管理牧師を任命する。但し、期限を 2019 年 3 月 31 日とする。 |
| 司祭 ヨハネ塚田重太郎 | 2018 年 10 月 17 日付 | 東京聖十字教会管理牧師を任命する。但し、期限を 2019 年 3 月 31 日とする。 |

横浜

| | | |
|---|---|---|
| 主教 イグナシオ入江 修 | 2018 年 9 月 8 日付 | 横浜聖クリストファー教会管理牧師、松戸聖パウロ教会管理牧師、柏聖アンデレ教会管理牧師、茂原昇天教会管理牧師、八日市場聖三一教会管理牧師、南三原聖ルカ教会管理牧師および鴨川聖フランシス教会管理牧師に任命する。 |

中部

| | | |
|---|---|---|
| 司祭 テモテ土井宏純 | 2018 年 9 月 30 日付 | 上田聖ミカエル及諸天使教会管理牧師の任を解く。 |
| | 2018 年 10 月 1 日付 | 上田聖ミカエル及諸天使教会協力司祭に任命する。 |
| 司祭 フランシス江夏一彰 | 2018 年 9 月 30 日付 | 上田聖ミカエル及諸天使教会副牧師の任を解 |

| | | |
|---|---|---|
| | | く。 |
| | 2018 年 10 月 1 日付 | 上田聖ミカエル及諸天使教会牧師、軽井沢ショー記念礼拝堂協力司祭に任命する。 |
| 九州 | | |
| ダビデ佐藤 充 | 2018 年 10 月 5 日付 | 日本聖公会聖職候補生に認可する。 |
| 沖縄 | | |
| 司祭 イザヤ金 汀洙 | 2018 年 9 月 1 日付 | 大韓聖公会釜山教区から日本聖公会沖縄教区への移籍を認める。 |

《教会・施設》

| | | |
|---|---|---|
| 大阪聖アンデレ教会（大阪） | 2018 年 9 月 23 日 | 聖別解除礼拝<br>2018 年 10 月 7 日仮礼拝所（一桃ビル）で礼拝開始。2019 年 1 月取り壊し工事開始。2020 年 8 月新棟完成、新礼拝堂にて礼拝開始予定。（住所・連絡先に変更無し） |

# 2018 年 CCEA　韓国テジョンからの報告

沖縄教区　主教　ダビデ　上原榮正

9月12日（水）から17日（月）まで、CCEA（聖公会東アジア教会協議会）が、韓国のテジョン教区の天安市（チョンナン市）にある韓国のユースセンターを会場にして、韓国、台湾、フィリピン、香港、ミャンマー、マレーシア、オーストラリア等から総勢で約90名を集めて行なわれました。日本からの参加者は、小林聡司祭（ECO：常任委員）、下条知加子聖職候補生と篠田茜姉（女性枠）、松山健作執事（青年代表）、担当主教代行として上原が参加をしました。今年のテーマは、「21世紀のイエスさまの弟子―平和と和解の神の大使として」でした。テーマにふさわしく、CCEAの内容は聖書の学びも特別講演も「和解」と「平和」、そして「朝鮮半島の南北統一」を中心に組み立てられていました。

戦前、アジア各国にあった聖公会の教会は、その殆どが植民地教会であり、管区として独立していたのは、日本とオーストラリアだけでした。その東アジア各地の植民地教会を統括していた主教たちの集りとして始まったのがCCEAのようです。CCEAは、アジア各国で宣教、伝道し、牧会をしていた主教たちの1年に1度の集いの場であり、各国、各地で宣教、牧会上での出来事を分かち合い、相談する場として設けられています。そして最終的には、各国の教会が管区として独立するのを目的としています。

元々CCEAは主教だけの会議だったのですが、2012年のCCEA総会で、2016年に東アジア青年大会を開催することを決議します。2013年、神戸教区で青年大会実行委員会が行なわれ、2016年のマレーシアのクアラルンプールで第一回東アジア青年大会が開催され、青年大会を４年毎に開催することを2017年のミャンマーでの主教会議で確認します。2016年のCCEAの青年大会には、日本聖公会の各教区から青年たちが派遣され、アジアの若者たちと一緒に良い学びと交わりが与えられたとの報告を受けています。

今回はCCEAに加盟している全ての教区と管区から、女性代表が送られてきました。目的は、女性のネットワーク作りのためです。主教会議に並行して、次回の東アジア青年大会の実行委員会と女性代表者の集いが持たれました。アジアの女性が抱えている問題は、女性の地位が教会でも社会でも低いこと、経済的に差別され

ていること、公の場での発言の機会が失われていること、決議、決定の場に女性の参加が与えられないことなどです。（これらは、一種のハラスメントだと考えられています。）

来年10月2日から7日まで、東マレーシアのサバ教区で、CCEA総会の開催が予定されています。今回、CCEAでは、2019年のCCEAの参加者の中に教区、管区〈日本とオーストラリア〉の参加者の1人に女性（聖職、信徒どちらでも可）を加えることを取り決めました。それは、4年に1度行なわれるCCEA総会に於いて、各教区と管区からの参加者の1人に女性を加えることを狙いとしてのことです。CCEAの会議が主教だけの会議から聖職、信徒が加わり、2000年代前半からは青年たちが、さらに女性代表にも参加枠が広げられてきました。CCEAの組織の変革と共に、その性格も変わろうとしています。

今回のCCEAで特筆することは、ACC（全聖公会教会協議会）の1つの委員会・セーフ・チャーチ・コミッション〈日本ではハラスメント防止委員会と理解されていると思います。〉のメンバーが参加し、世界中の教会が直面している課題について、話し合われたことです。セーフ・チャーチ・コミッションから、来年のACCへ向けて、CCEAの主教たちに対して質問がされました。それは「教会で起きているハラスメントの原因は、どこにあるのか」ということです。もちろん、ハラスメントの状況や有り様は、国の文化、環境、歴史的背景などによって異なります。ACCは以下の12項目を、教会のハラスメントとして今回提案するようです。①いじめ ②隠匿、隠蔽 ③インターネットでの中傷、悪口 ④感情的嫌がらせ ⑤経済的虐待 ⑥ハラスメント ⑦名誉棄損、侮辱 ⑧ネグレクト、放置、放任 ⑨肉体的虐待 ⑩性的虐待 ⑪中傷、悪口 ⑫精神的虐待、などです。これらのハラスメントが教会から無くならない原因は何故かの質問があり、1つの原因は、教会の隠蔽体質、隠匿にあると答えられた主教がおられました。考えさせられます。

今回のCCEAの1番のハイライトは、江華島にあります平和監視所の訪問でした。平和監視所は、肉眼でも北朝鮮が良く見える場所にあり、

北朝鮮から漢江川を渡ってくる脱北者を監視するために軍隊が配置されています。その北朝鮮が良く見える場所で、CCEAに参加をした全員で平和のために、南北の統一のためのお祈りを捧げ、宣言をしました。その中で、全主教が北朝鮮に向かって手を挙げて、声を出して、南北の平和と統一をお祈りできたことは、大きなお恵みであったと思います。最後は、CCEA議長の東アジア聖公会のNg Moon Hing主教の祈りと台湾聖公会のDavid Lai主教の祝祷をもって終わりました。

最後に、CCEAも過度期にいるように感じました。全てが主教たちによって決められていた時代から、聖職、信徒、青年、女性など教会を形成する代表者会に変わりつつあるようです。変動する時代の中で、CCEAも変わろうとしていて、主教たちにその決断が迫られているようです。

## 2018年管区人権セミナー

# 「いのちと尊厳」

管区宣教主事　マルコ　谷川　誠

「いのちと尊厳」をテーマにした人権セミナーは、9月11日（火）から13日（水）にかけ22名が参加して、長野県・小諸市及び松代町周辺で行なわれました。このセミナーは、各教区に存在する人権の課題を学び、共有することを目的としています。原則として各教区が輪番で担当することになっていて、テーマ、内容、プログラムは全て担当教区に任せられています。

この度は、中部教区に担っていただき、社会福祉法人小諸学舎訪問及び講演、松代大本営地下壕（松代象山地下壕）見学、作家であり信州沖縄塾を主宰するハンセン病回復者・伊波敏男氏の証言を中心に進められました。

まず、知的障害者の支援施設である小諸学舎を訪ね案内をしていただきました。この施設は聖公会の信徒でもある小松敏幸・よし江ご夫妻が運営を担っていて、高台の緑の中に、本館、加工棟、体育館、浴室兼活動棟などが点在して、施設入所支援、生活介護、地域生活日中支援、地域交流スペース、グループホーム等の活動の拠点となっています。

何よりも小諸学舎の設立理念「一羔（イチコウ）なる思い」に深い感銘を覚えます。前身である「一羔会（イチコウカイ）」は、聖書の迷い出た一匹の羊のたとえに由来して、「社会から一人たりとも排除しない」という理念を掲げ、その象徴として一匹の羊を探す羊飼いの姿に倣うことを指針にしております。この強い決意は現在にまで引き継がれているのです。

講演をお願いした学舎長の小松敏幸氏は、「迷い出た一匹の羊を連れ帰り、皆で喜び合ってこそ意味があるのだ。いのちの問題は、勉強では身につかない。」と語りました。

「親が子を施設に預けるのは決して育児放棄ではない。そして、これは子の自立のためである。」とも述べ、また、優生保護法にも触れ、進化論を人間に当てはめることの違和感を指摘しました。

「のんき、こんき、元気」をモットーとして日々活動しているとにこやかに話され、すべてを許容して、当然のように受け入れる自然体のお人柄は学舎全体の空気を柔らかにしています。若い職員の皆さんが、明るく、元気に働いている姿に「一羔なる思い」が隅々まで行き渡っていることが感じ取れました。

次の日は、松代大本営地下壕（松代象山地下壕）の見学です。この地下壕は、第二次世界大戦の末期、本土決戦最後の拠点として、大本営、政府各省等を松代に移す計画のもとに、昭和19年から終戦の日まで突貫工事で建設されました。この工事のため労働者として多くの朝鮮や日本の人々が強制的に動員されました。食糧事情の悪い状況での過酷な労働で、多数の犠牲者が出ました。地下壕入口には、朝鮮人犠牲者のための慰霊碑が建立されています。

この延長10キロにも及ぶ地下壕の完成のために、沖縄戦は時間稼ぎの捨て石とされ、戦闘は長期化、結果20万人の死者を出すことになったのです。

昨年の人権セミナー（沖縄週間／沖縄の旅）で学んだ沖縄戦の数々の悲惨が、松代の地下壕建設と繋がっていることに戦慄を覚えます。

プログラムの最後は、沖縄出身でハンセン病回復者である伊波敏男氏の証言を聞きました。14歳のときハンセン病と診断され、沖縄の愛楽園に隔離収容されました。何としても高等学校で勉学を続けたいとする強い思いで、戦後、アメリカの軍政下にあった沖縄から「本土」に脱出して、長島愛生園内の県立高校を卒業いたしました。その後、根強いハンセン病回復者にたいする偏見と差別の社会の中で、自己の病を隠すことなく闘っている方です。

講演は、臨場感に満ち、力強く心に響くものでした。「人権は自身の生き方で教えるものだ。それぞれの人が自身の闘いをして欲しい。」と訴えられ、最後にまとめのメッセージとして、以下の言葉を紹介されました。

〝敵を恐れることはない・・・
　　敵はせいぜいきみを殺すだけだ。
友を恐れることはない・・・
　　友はせいぜいきみを裏切るだけだ。
無関心の人々を恐れよ・・・
　　かれらは殺しも裏切りもしない。
だが、無関心の人々の沈黙の同意があればこそ、
地球上には裏切りと殺戮が存在するのだ。”

（ブルーノ・ヤセンスキー『無関心な人々の共謀』より）

セミナーは、中部教区の方がスタッフとしてプログラム全体を支えて下さり、また、参加者の熱心な学びの姿勢によって、充実した気持ちの良い研修になりました。準備からセミナー全般に関わって下さった中部教区の皆さまには心よりお礼を申し上げたいと思います。

---

## 「2018 年　在日韓国出身教役者の集い」

中部教区　司祭　金（キム）　善姫（ソンヒ）

2018年在日韓国出身教役者の集いは、10月1日～4日3泊4日間沖縄で行なわれました。

19名中11名の教役者と4名の家族の参加で15名と大韓聖公会よりゲスト1名と共に集い、祈り、豊かな交わりの時を過ごせました。この集いは毎年行なわれ、①司牧する教会を訪ね祈りと信徒と交わりの機会を持つ事 ②現地の宣教活動の歴史に学び、日本の宣教への理解を深める事 ③多様な立場で働く教役者たちの経験を分かち合いと励ます事、を主な目的としています。特に、今回は愛楽園で牧会している高英敦（コウヨンドン）司祭と共に、「愛楽園祈りの家教会」を訪ね、信徒さんたちと豊かな時間が与えられました。

10月1日は、那覇航空に集まり、それぞれ沖縄教区の司祭の送迎で名護聖ヨハネ教会へ移動し、開会礼拝を行ない、上原榮正主教による「沖縄教区のあゆみ」のお話を伺いました。日本聖公会宣教150周年記念の時に知ったベッテルハイム師が聖書の琉球語訳を残した事も興味深く、国立ハンセン病療養所沖縄愛楽園が出来るまでの経緯はとても心に染みました。当時の沖縄の人々はとても貧しくハンセン病の発病率も高くて、ハンセン病を恐れる人々の差別や暴力を避け人里離れた所で逃げ込んで生きていたそうです。熊本・回春病院から派遣された自らもハンセン病患者であった青木恵哉氏は無人島で耐

え忍び、「祈りに明け、祈りに暮れ、たえず神を賛美する生活、それは物質的には貧しくとも心の満ち足りた生活であった」との青木先生の言葉を伺い、心熱くなりました。その後、回春病院から送られた活動費で購入した土地に移住してから国立療養所ができたそうです。

日本で働く韓国出身の教役者である私たちは、上原主教を通して、沖縄の歴史の一面に登場する青木司祭を知り、それぞれの派遣の地で誰と共に生きているのか自問しました。

今回は台風で沖縄に到着の時間が遅れての1日目でしたが、夕食のために集まってくださった沖縄教区の高良孝太郎司祭、西平妙子司祭、並里輝枝司祭、またそのご家族と共においしいバーベキューもありがたかったです。特に金汀洙（キムジョンス）司祭の3人息子たちの元気な姿は何よりも大切なプレゼントでした。父の側で焼かれたお肉をその隣の弟に渡してくれる、嫌いな野菜や好きなキノコ。その周りでほほ笑む大人たち。

愛楽園で宿泊し、2日目は愛楽園祈りの家教会の信徒さんたちと共に夕食の交わりの時間を持ちました。前もって準備した歌をみんなで歌い、三線の先生の演奏に合わせてみんなが歌う沖縄民謡も美しく、歌声にみんなが嬉しくなり、信徒さんの踊りに合わせてみんなが踊りました。夕食の準備をしてくださった信徒のみなさまに、この誌面をお借りして、心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

高英敦司祭が管理している隣の屋我地聖ルカ教会の新しく洗礼・堅信を受けたサラ玉城（たましろ）圭子（けいこ）さんが息子さんたちと共に来られて、習っている空手を披露してくれました。三人兄弟の内二人が一緒にする予定だったのに、一人が足のケガをして一人で舞台の上で見せてくれました。大きな気合の声と共に節度ある姿には感動しました。ちょっと間違った時も、「間違った」と呟きながら最後までやってくれました。

その空手の後のお母さんの自己紹介。教会が運営している幼稚園に通っていた中学生の長男と次男がまず洗礼を受けたいと言い出して、その後家に泥棒が入ったことを知り、不安がる母親に「こういう時はお祈りしなくちゃ」と跪いて、手を合わせお祈りしてくれる姿には感動したそうです。神様が私たちを守ってくださり、子どもたちの成長を見守ってくださることが信じられたと。人生にはいいことだけではないけど、いいことじゃないことを通しても神様の愛を信じる子どもの心に私たちはみんな大きく拍手を送りました。

愛楽園での楽しい二日間、一人ひとりの近況報告を聞きながら病気の回復、牧会の悩みと嬉しいこと、お話は絶えませんでした。那覇に移動しながら、金汀洙（キムジョンス）司祭が司牧している島袋諸聖徒教会でお祈りし、週末の運動会の準備をする子どもたちの元気いっぱいの声に励まされ、那覇に移動し夕食のために出かけた時から強風と雨と共に台風の警報が出ました。

夕食の時は帰りの日に欠航の確定を知り、次の日は朝から空港へ移動し、予約の変更や待機の時間でした。予定の閉会礼拝は出来ず、高英敦（コウヨンドン）司祭は台風24号の影響で停電が続いていた自宅へ向かい、午前中は北九州、次の日は

東京、大阪と順に帰り、台風が接近する九州は日曜日に、私は土曜日に新潟に帰りました。牧師たちが集まってどうする?どう祈る?という問いに、一人が「神様が風を起こし、創造された世界をきれいに掃除されるのに、御心のままに」と。私たちがこれから過ごす所でもすべて神様の御心のままに!主の平和。

参考：在日韓国出身教役者は北海道教区1名（米国居住）、東北教区1名、東京教区5名（立教大学チャプレン1名、米国居住2名）、横浜教区2名（ミッション・トゥ・シーフェアラーズ1名）、中部教区2名、大阪教区3名（カナダ聖公会へ出向1名）、九州教区2名、沖縄教区3名　以上計19名

## 世界の聖公会の動向

・エチオピアの神学校から卒業生
・ブルンジのマザーズ・ユニオン

管区渉外主事
司祭 ポール・トルハースト

### ○エチオピアの聖フルメンティ神学校から最初の卒業生

エチオピアのガンベラ地方に設立された聖公会による神学校で、創立時の神学生が3年間のコースを修了したことが祝われた。聖フルメンティ神学校の7人の卒業生のうち2人は難民であり、他は歴史的な対立関係を持つ異なる2つの部族の出身者からなる。この3年間にわたって、ガンベラ地方における民族間の緊張状態が高まっていたため、神学生たちがキャンパスで共に過ごすことは安全とは言えなかった。

2015年11月に開校した聖フルメンティ神学校は、エチオピアで初めての聖公会系の神学校である。南スーダンからキリスト教徒の難民がこの地域に移住した影響で、エチオピアの教会は急速な成長を遂げており、この地域における神学訓練を求める切実な声に応える形で開設された。

神学校が設立された当時、膨張を続けるガンベラの教会を支えていたのは、わずか17名の聖職者であり、しかも神学士の資格を持つ者は1名のみという状況であった。

開校以来、質の高い神学教育を提供する場としての評判は着実に高まっている。先日、ガンベラのバプテスト教会は、聖フルメンティ神学校に自らの聖職者の訓練を依頼した。

### ○マザーズ・ユニオンがブルンジで70年の「家庭、教会、国」を祝う

1948年に創設されたブルンジのマザーズ・ユニオンは、日常生活の中で必要となる基本技能を女性に伝えることを通じて、個人、家族、コミュニティを変革させる重要な役割を果たしてきた。開設当初は、イエス・キリストの福音を分かち合いながら、機織り、縫製、調理に焦点を当てて活動を行っていた。

86歳のMUメンバーであるエミリアン・ムデェンデは、次のようにコメントしている。「私たちは、家族の世話をする方法を教えられました。そして私たちに伝えられた福音は、私たちの生活を大きく変えて、異なる地域や宗教の女性たちがマザーズ・ユニオンに加わり、そのうちの何人かは聖公会にも加わってくれました。」

ブルンジのマザーズ・ユニオンは、同国の無教育に対する取り組みの最前線に立っており、現在では小規模の事業開設や貯蓄と資産管理の促進にも参与している。

さらにジェンダーに基づく暴力に関わる社会問題に取り組んでいるため、アドボカシー（政策提言活動）は、MUが果たす貢献の中で主要な部分を占めている。

# 世界宗教者平和会議・日本委員会理事長に
# 日本聖公会 植松 誠首座主教が就任

2018年10月3日

報道関係者 各位

（公財）世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）日本委員会

## 再　録　プレスリリース　#143
## ＷＣＲＰ／ＲｆＰ日本委員会　理事長の交代
## 新理事長に植松誠師が就任

（公財）世界宗教者平和会議（ＷＣＲＰ／Religions for Peace=Ｒｆ Ｐ）日本委員会は９月28 日、立正佼成会京都普門館（京都市）で開催した「第26回理事会」において、任期満了に伴う理事長の改選を行いました。同理事会の席上、これまで理事長を３期６年務めてきた杉谷義純師（天台宗・妙法院門跡門主）から退任の意向が示され、理事の互選の結果、新理事長には、同日本委員会理事で総合企画委員の植松誠師（66）＝日本聖公会首座主教が選任されました。任期は２年です。就任のあいさつに立った植松新理事長は、「理事や評議員、事務局の皆さんの支えを頂きながら、自分にできることを精いっぱいさせて頂きたい」と抱負を述べました。

新理事長の植松師は1952年、山梨県に生まれました。大阪芸術大学や米フィリップス大学大学院を卒業。日本聖公会の牧師の道を歩み始めるとともに、米聖公会サウスウェスト神学院で82年に修士号、98年に博士号を取得しました。この間、86年に日本聖公会大阪教区大阪聖三一教会牧師に、94年に同管区事務所（教団本部）総主事に就任。97年から北海道教区主教を務め、2006年に首座主教に就き、同年から、ＷＣＲＰ／ＲｆＰ日本委の理事を務めています。

世界宗教者平和会議（ＷＣＲＰ／Religions for Peace=Ｒｆ Ｐ）

1970年に発足した国際NGO。国連経済社会理事会に属し、1999年に総合協議資格を取得。世界90カ国以上にわたる国際諸宗教ネットワークとして諸宗教間の対話・協力を通した紛争和解や平和教育などの平和構築活動を行っています。同日本委員会は、1972年に日本宗教連盟の国際問題委員会を母体として発足し、現在は公益財団法人として諸宗教連帯による平和活動を行っています。

植松誠（うえまつまこと）

The Most Rev. Nathaniel Makoto Uematsu

１９５２年２月　山梨県清里にて出生
１９７５年３月　大阪芸術大学芸術学部音楽学科卒業　芸術学士
１９７９年５月　米国オクラホマ州フィリップス大学大学院言語聴覚障害学科卒業
Master of Science
１９８２年５月　米国テキサス州オースティン市　米国聖公会サウスウェスト神学院卒業
Master of Divinity（神学修士）
１９９８年５月　同上　Doctor of Divinity（神学博士）

１９８２年９月　日本聖公会大阪教区　芦屋聖マルコ教会牧師補就任
１９８４年２月　同教会　副牧師就任
１９８６年４月　同教区　大阪聖三一教会牧師就任
１９９４年５月　日本聖公会管区事務所（教団本部）総主事就任
１９９７年３月　日本聖公会北海道教区主教就任
２００６年５月　日本聖公会首座主教就任

社会福祉法人　聖公会北海道福祉会理事長
学校法人　聖公会北海道学園理事長
学校法人　聖公会神学院理事長
学校法人　立教学院理事
学校法人　聖路加国際大学理事
公益財団法人　世界宗教者平和会議日本委員会理事
同上　総合企画委員

元　公益財団法人　日本宗教連盟　理事、理事長
前　日本キリスト教連合会委員長

札幌市北区に在住（６６歳）

# 北海道 胆振東部地震による被害関連情報

日本聖公会　北海道教区

**第３報**　2018年９月２８日

主の平安をお祈りいたします。

9月6日に発生した北海道胆振東部地震から3週間あまりが経過しました。現在も600名ほどの方々が避難生活をしておられ、その中には生活の再建、事業の再開の目途が立たない方々が多くおられます。これから寒い時期を迎えますので、早期の回復が望まれます。

北海道教区は9月19日より苫小牧聖ルカ教会に「聖公会ボランティアセンター」を設置いたしました。10月3日までの限定的な活動ですが、神戸、東北、横浜、京都など複数の教区から、信徒、教役者の方々が参加、または参加の申し込みをいただき、感謝申し上げます。この度の報告では、センターの責任者である吉野司祭のレポートをお送りいたします。被災地の状況が少しでもお伝えできれば幸いです。

改めて、亡くなられた方々、困難な生活を強いられている方々を覚えて、主の癒やしと回復の道が整えられますことをお祈り申し上げます。

＜ご報告＞

胆振東部地震　聖公会ボランティアセンター
責任者　司祭　吉野暁生

ボランティアセンターが開所した当初は利用者がなかったので、吉野が作業に参加しました。9/19、20はむかわ町に、9/22，24は安平町です。21日より、ボランティアの参加がありました。

厚真町は報道で注目度が高いためか、ボランティアは募集の2倍ほど集まっている状況です。安平町は幼稚園運営の登録システム（ICT）を使ってボランティアの登録などをしていることもあり、安定して人が集まっているようです。それに比べてむかわ町は、人の集まりが少ない印象でした。

厚真町も町の中心部には家の大きな被害はありませんが、農村部に土砂崩れのため被害が集中している状況です。また完全に壊れてしまっている家も多くあります。後継者不足に苦しむ稲作、酪農地

帯でもあります。むかわ町は町の商店街で、一階が店舗の家の店舗部分がつぶれている家が多いです。安平町は家の被害は多くないようですが、その分、家の中のものが多く倒れ、そういった被害が多い印象でした。また、どの地域も家そのものは無事でも、家具などへの被害が多かったようです。

現在の主な作業は災害ゴミの回収です。倒れたタンスや本棚、割れた食器や電球などを回収して災害ゴミとして一時集積所に持って行きます。場合によっては搬出も行います。参加してくださっているボランティアさんには、これらの作業をお願いしています。

各々の町の共通した状況として、高齢者世帯が多く、もともと多くの物を処分できずにため込んでいる家も多いため、それらのものも併せて町内をきれいにしていこうという流れがあり、災害ゴミに混じって、それらを処分している状況です。また、最近になって近隣市町村の親せき宅などに避難していた人々が戻り始めており、それらの方のごみがこれから出てくるでしょう。しかし、各町の災害ゴミ回収は9/30までとなっているため、特に今週末は非常にボランティアの需要（特に力仕事）があるものと思われます。

避難所生活が長引かないよう、仮設住宅の整備、また見なし仮設への移住も進んでいます。そして、これから心のケア等の動きも大事になってくるでしょう。

報道では「日常が戻ってきている」と言いますが、全体的に少しずつ戻ってきているというよりは、「戻れた人」がぽちぽち出てきたということなのだろうと思います。「戻れない」人にとっては、少

しも「日常」ではありません。

避難所では、子どもの泣き声をめぐって車中泊やテントで生活している人もおられます。そのような方々に暖かい手が差し伸べられることを願っています。また、週明けに北海道に再接近する台風の影響が懸念されます。地震で傷んだ家屋や店舗、農地に再び被害が及ばないことを願っております。（自治体の要請によって写真の掲載を自粛しておりますのでご了承ください）

日本聖公会北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠
事務所主事 司祭 コルベ 下澤 昌

日本聖公会 北海道教区

**第４報**　2018 年 10 月 1 日

主の平安をお祈りいたします。
北海道胆振東部地震を受けて、復興復旧作業が少しずつ進んでおりますが、自治体などの対応も状況によって日々刻々と変わる部分があります。北海道教区としては、それらの動きを注視しつつ、今後も可能な限り協力していきたいと願っております。
いまも困難な生活を続けておられる方々を覚えて、主の癒しと回復の道が整えられますことをお祈り申し上げます

＜聖公会ボランティアセンターの作業期間終了について＞

9 月 19 日より苫小牧聖ルカ教会にボランティアセンターが開設され、実質的には 21 日から活動を開始いたしました。当初、10 月 3 日までの活動を予定しておりましたが、被害の大きかった安平町、むかわ町、厚真町の 3 町が、10 月より平日のボランティア受け入れを中止し、土日、祝日のみとの決定をしたため、ボランティアセンターは 9 月 30 日の主日聖餐式をもって期間を終了することとなりました。それまでの間、地元の北海道をはじめ神戸、東北、横浜など遠方の教区から、8 名が作業に加わって下さいました。改めて感謝申し上げます。信徒、教役者の方々が参加、または参加の申し込みをいただき、感謝申し上げます。また全国から、センターの働きのためにお祈り、ご支援をいただきましたことを重ねて御礼申し上げます。

今後、また状況が変わり、新たな活動が展開可能となった場合はお知らせいたします。

＜被害を受けた教会の現状について＞

〇新札幌聖ニコラス教会

牧師館の床が傾くなどの被害を受けましたが、専門業者による補修作業の大部分を 9 月中に終えることができました。（写真）10 月中旬までにはすべての作業を終えられることと思います。また、基礎部分の損傷については、建物に大きな影響がないということが分かり、様子を見ることといたしました。

〇苫小牧聖ルカ教会

外壁の一部が落下する損傷を受けましたが、ボランティアセンターの拠点として開放されてきました。外壁の工事は 10 月初旬に終える予定です。

以上 2 教会についても多くの方々からご心配の声、お祈りをいただき感謝いたします。

以上

日本聖公会北海道教区 主教 ナタナエル 植松 誠
事務所主事 司祭 コルベ 下澤 昌

## 宣教師逝去者記念・青山墓地の清掃

(2018・10・5)

今年はことのほか暑く、災害の多い夏でした。この日も大型台風25号の影響が懸念され、東京の空はどんより小雨もぱらつく朝を迎えたのです。が、墓地清掃時間帯だけはなぜか、気温も湿度も適温適度。暑くもなく寒くもなく、まさに墓地清掃日和となりました。そのため、今年の宣教師逝去者記念・青山墓地清掃は、例年に比べ、作業を順調に進めることができたように感じました。

宣教師の方々の墓石周辺の草刈りを終え、墓石をブラシでゴシゴシ磨き、改めて拝見しますと、そこには1902年、1904年などと逝去年が記されていました。わたしの祖父母が生まれて間もないような時代に、すでに様々なお働きを終え逝去された宣教師の方々…。わたしたちは今、その宣教師の方々が築いてくださった礎の元、教会に通い、礼拝を捧げ、様々な活動を行なっています。しかし、宣教師の方々がいらした明治から、大正、昭和、平成と時は流れ、世の中にはめまぐるしい変化が起こりました。

当時、宣教師の方々が宣教を諦めずにこの国に留まったのには、様々な理由があったと推測されますが、貧しく小さなこの極東の地にも“み国が来ますように”という彼らの強い使命感と願いが、最も大きな理由ではなかったかと、わたしは感じました。

いつの世も、社会的問題の渦の中、その都度教会のあり方が問われてきました。現代ならば、原発・環境問題、ジェンダー・人権問題、ハラスメント問題 etc.　時代によって人間が抱える問題は様々で、時には、解決困難な問題を人間自らが勝手に作り上げているように思います。そして、その勝手な問題に翻弄され、教会の本質から離れてしまうような行為もあるのではないでしょうか?　わたしたちは宣教師の方々の“み国が来ますように”というその意志を素直に守り受け継いできたでしょうか?　墓石を磨きながら、宣教師の方々の「いかなる問題に直面しても、大切なのは“み国が来ますように”と、みんなが心を合わせ、神に祈り、日々過ごすこと。難しいことなど一つもないのだよ。わかってもらえるかな?」という優しくも厳格なささやきが聞こえました。あるいは、わたしの空耳かもしれないですけれど…。

今年は日本聖公会第64(定期)総会が開催された年でもあり、この日が墓地清掃最終候補の日。管区事務所の総主事はじめ職員が一丸となって作業を実施できたことは、たとえようのないお恵みでした。
主に感謝!

(管区事務所職員　鈴木さおり)

**教会の声 / 読者の声**

## 函館聖ヨハネ教会の修復工事終了

（藤井司祭からのおたより）
主のみ名を賛美いたします。
2018 年大斎克己献金国内宣教強化資金の 1,000 万円を使わせていただき、お陰様で、教会の修復工事が 9 月末に無事終わりました。日本聖公会の全教会、全関係施設の皆様方に御礼を申し上げたいと思っております。
修復御礼の文章と、函館新聞の記事を添付致します。どうぞよろしくお願い致します。
（函館聖ヨハネ教会　嘱託司祭　藤井八郎）

**< 教会からのご挨拶 >**
日本聖公会関係各位
聖主の御恩籠をご祈念申し上げます。
この度は、日本聖公会全信徒皆様の祈りと決意による尊い捧げものを宣教強化の働きのため頂戴し、心より感謝し御礼申し上げます。
北海道教区発祥の拠点としての使命と実践は、初代宣教師たちの働きに優るものではありませんが、信徒一同熱意と信仰と愛に燃えてこれに応えて参りたいと決意を新たにしております。
今の時点で望める化粧直しが、信徒皆様の信仰の刷新に繋がっていくようにと願うものです。地方の一教会が御霊の充満と導きを賜り、ますますその本分をまっとうできますようにと祈り願うものです。尊い皆様のお捧げが活きて働くものとなりますようにお祈りくださいますようお願いし、言い尽くせぬ感謝と御礼を申し上げます。

敬具

2018年11月1日

函館聖ヨハネ教会
管理牧師　主教　植松　誠
信徒一同

**□函館新聞・10月1日の記事**

### 函館聖ヨハネ教会　工事終了

6月から進めていた函館市元町の函館聖ヨハネ教会の修復工事が終了し、9月30日、同教会聖堂で感謝の祈りがささげられた。同教会管理牧師で日本聖公会の植松誠首座主教が聖水をまいて建物を祝福した。

1979年に完成した現在の聖堂は十字型の屋根を持ち、ドーム型の天井の礼拝堂がある。信徒だけではなく、教会や寺社が隣接する西部地区にあって、函館を訪れる多くの観光客も足を運ぶ。今年6月からの改修工事では、老朽化していた外壁や屋根など外観上の補修を進め、集会室やトイレの改装も行なった。

この日の礼拝では、植松首座主教や藤井八郎牧師らが信徒とともに祈りをささげ、安全に工事が終了したことに感謝した。

植松首座主教は1874（明治7）年に英国聖公会宣教協会の宣教師、ウォルター・デニングが来函した歴史に触れ、函館が道内での布教活動の始まりの地であることを強調。「文化も習慣も違うこの地にイエス様を伝えたいという情熱や信仰をもってやってきた人たちがいてこの教会がある。この教会は宣教の拠点であるという重大な責務を持っている」と述べた。（今井正一）

修復工事を終えて外観もきれいになった函館聖ヨハネ教会

※また、函館聖ヨハネ教会のＨＰに修復のページがあり、修復前～修復中～修復後の写真がのっています。あわせてご覧ください。http://peacebe.net
（写真提供：函館聖ヨハネ教会信徒 丸山悦子）

**📖 出版物案内**

・『2019 年度 教会暦・日課表』
2018 年 10 月 1 日付発行 頒価 300 円（税込）

・『日本聖公会要覧　2017－2018』
2018 年 10 月 1 日付発行 頒価 1,000 円（税込）

お求めは聖公書店またはお近くのキリスト教書店にお願いいたします。

管区事務所編集　**11 月初旬発行**

**聖公会手帳 2019**

・日記と年鑑を兼ねた便利性！
・教会暦・日課表を完全収録！
・教会・伝道所と関連施設が、直ぐわかる
・紙質を軽量化して使いやすさを追求！

○**大型判 2,200 円／通常判 1,200 円**（税込）

申し込みは聖公書店（TEL 04-2900-2771）、
またはお近くの書店まで。

日本聖公会管区事務所ホームページ http://www.nskk.org/province/
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。